

再認識した地域の強み

日本銀行釧路支店

支店長 小高 新吾

平成24年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年の道東地域の経済を振り返ってみますと、年初には、ゆっくりと景気が回復しつつありましたが、3月11日に発生した東日本大震災により状況は一変しました。水産加工業や製紙業などで肩代わりの生産を求められた一方で、津波によって漁業関係を中心に資本ストックが毀損したほか、個人消費、特に旅行関連を中心に観光客の大幅な入込み減少という事態にも直面しました。その後、関係者の懸命なご努力もあって、こうした影響は秋頃までにほぼ払拭するに至り、このところ当地の景気は持ち直しの動きに復しています。

昨年夏、ほぼ四半世紀ぶりに当地に着任して参りましたが、こうした中で、改めて認識させられたのが、道東地域の持つ優れた潜在力です。当地の優れた潜在力として、第一に「環境」が挙げられます。震災後、節電ニーズが強まる中、当地の冷涼な気候を活かして、夏季には首都圏などからの長期滞在者の受入れが活発化しました。今後も、こうした取組みについて、工夫を凝らしつつ発展させることで、豊かな自然と合わせて新しい観光・生活スタイルを提案し、多くの観光客や滞在者を呼び込むことが可能であるとみています。2つ目は「農水産物」です。昨年、サンマや生乳・乳製品などについては、供給制約に見舞われた本州に代わって供給を続け、食料資源の供給基地としての機能を発揮しました。また、震災後の厳しい環境の中でも農水産物のアジア等海外向け輸出を実現する動きもみられました。当地で産出される高品質の食料資源については、海外からの評価も高く、市場開拓の余地はまだ残されていると考えられます。3つ目は「自然エネルギー」です。震災後、改めてエネルギー問題が注目されていますが、当地は、太陽光発電に必要な日照時間について、全国有数の長さを誇っています。また、一次産業と結びつく形でバイオマスエネルギーを活用する取組みもみられており、これらは今後の新たな成長分野となる可能性を秘めています。

こうした道東地域の持つ優位性は、地域全体の活性化を通じ、一段の経済成長を実現していく上での一つのカギになると考えられます。この一年を通じ、これらの地域の強みを活かす取組みがますます盛んになり、成果に繋がっていくことを祈念しまして、年頭のご挨拶に代えさせていただきます。